

■田島道治 戦前に銀行家として金融恐慌に対処、敗戦後に初代宮内庁長官として宮中改革後、{ソニー}の発展に尽力。

たじまみちじ

内閣発足・・・1885＝ 名古屋市中区伊勢山町で、田島五郎作・芳の三男に生まれる。田島家は、三河国高浜に500年続いた旧家で、刈谷藩御用達だったが、維新に当たり藩に貸した金全てを棒引きにしたため没落し、名古屋に移った。

兄2人は夭折したので、実質的に長男、姉が2人いて、

妹が誕生。

帝国憲法発布1889＝ 4歳： 弟が誕生。小学校に入学、

一家で島田町に転居したため、菅原小学校に転校、

大本教・・・1892＝ 7歳： 末妹を出産した母が、肥立ち悪く、死去。

郡司千島探検1893＝ 8歳：
日清戦争始・・・1894＝ 9歳：

慶應義塾を卒業して在京した叔父(母の弟六歳)の影響を受けていて、

子規句歌革新1898＝13歳： 愛知県立第一中学校に入学するも、勉学のため上京の思いが強く、

ピアノ/国産化・・・1900＝15歳： 3年次に単身上京し、東京府立第一中学校へ転校。

日比谷公園・・・1903＝18歳： 府立一中を二番で卒業後し、**狩野亨吉が校長の旧制第一高等学校に入学、**

日露戦争終・・・1905＝20歳：

満鉄発足・・・1906＝21歳：**新校長新渡戸稲造から強い刺激を受けて、卒業し、東京帝国大学法科大学法律学科に入学。一同高同窓生らとともに新渡戸を囲む(読書会)会員の中心、無教会キリスト教徒となるに至る。**

韓国併合・・・1910＝25歳： 卒業。帰郷し、資産家の娘と結婚。夜間の法律学校で教鞭とった後、

大逆事件判決1911＝26歳： 長男が誕生。父が隠居し家督を相続。文官高等試験にも合格。愛知銀行(東海銀行の前身)に入行し、

明治天皇没・・・1912＝27歳： 調査部長となる。

民本主義・・・1916＝31歳：**早くから目をつけていた鉄道院総裁後藤新平に引き抜かれて、その秘書となるが、**

ロシア革命・・・1917＝32歳： 次男が誕生。

本格政党内閣1918＝33歳：**米騒動で寺内内閣が総辞職し、失職。**

べルリン条約・・・1919＝34歳： 後藤・新渡戸が計画した外遊に誘われ、鶴見祐輔らと参加、貴重な体験をさせて貰って、帰国、

大暴落・・・1920＝35歳： 愛知銀行に戻って、常務取締役役に就任。

原敬首相暗殺1921＝36歳：

水平社結成・・・1922＝37歳： 父が死去。

護憲三派圧勝1924＝39歳： 弟が死去。

金融恐慌・・・1927＝42歳：***日銀総裁井上準之助の要請で、破綻銀行ため設立された昭和銀行常務取締役となり、瞬間に数字を把握し、債権返済と厳格な基準による破綻銀行の査定を実施、**

世界恐慌・・・1929＝44歳： 大きな影響を受けた後藤新平が死去。

海軍軍縮条約1930＝45歳：

満州事変・・・1931＝46歳：

五一五事件・・・1932＝47歳：**井上暗殺の報のなか、債権債務の整理が済み、中小企業金融などで業績も伸び、配当開始にこぎつけ、**

国際連盟脱退1933＝48歳： この年設立の{昭和研究会}常任委員。新渡戸が死去、{故新渡戸博士記念事業実行委員会}結成し代表。

帝人疑獄事件1934＝49歳： この年設立の{国策研究会}常任理事。

芥川直木賞始1935＝50歳：**昭和銀行2代頭取に就任。**

日中戦争始・・・1937＝52歳：**退職金担保に自宅隣の空地を購入し、学生寮{明協学寮}を建設、狩野亨吉の揮毫を貰い、自ら週に一回、早朝論語の講義を行い、一流人をゲストに学生らと話す月例会を開くなど、半ば道楽のように人材育成。**

健保+総動員 1938＝53歳：**退職、池田成彬の指名で、商工省監督下に設立された国策会社日本産金振興会社社長に就任するが、**

第二次大戦始1939＝54歳： 長男が松岡洋祐の娘と結婚。

大政翼賛会・・・1940＝55歳： 次男に召集令状。**気がのらないまま、辞任。以後、しばらく職につかず、{明協学寮}に専念、**

日米開戦・・・1941＝56歳：

・・・1942＝57歳： 尊敬し終生支え続けた狩野亨吉が死去。日銀内の全国金融税制会理事、東京興信所会長兼所長となり、

年金+総武装 1944＝59歳： 大阪の商業興信所と合併させ東亜興信所を創立させると、相談役に退く。

敗戦・・・1945＝60歳： 空襲で家財・学寮全て焼失し、軽井沢の別荘に疎開。日銀参与となった後、敗戦。**文部次官やNHK会長への就任を辞退する一方、井深大の岳父前田多門に頼まれ、東京通信工業(ソニー)設立への融資に尽力。**

新憲法公布・・・1946＝61歳： 貴族院議員に勅選され、日本国憲法など重要法案審議に参加。大日本育英会(日本学生支援機構)会長兼理事長事務取扱になると、貸与人数四倍増に。一時病臥の一方、徳川{黎明会}の活動にも尽力。

極東裁判決・・・1948＝63歳：***宮中改革を実行しようとする芦田均首相が、交代に難色を示す昭和天皇側押切って、宮内府長官に任命され、やはり新渡戸内村門下生だった三谷隆信侍従長との"宮中クリスチャンコンビ"が誕生。**

三大事件・・・1949＝64歳：**縮小・改変された宮内庁の初代長官となると、首相吉田茂と密接に連絡を取り合い、侍従職など"オク"の力を抑え、長官官房に権限を集中させて民主化。小泉信三の皇太子教育掛も実現、**

独立回復・・・1951＝66歳：

メデー-事件・・・1952＝67歳： 次男が結婚。**病と闘いながら、'反省のお言葉'で天皇退位論に終止符打ち、皇太子訪英を無事に済ませ、民間皇太子妃への道筋つけると、**

テレビ放送始・・・1953＝68歳： 宮内庁次長宇佐美毅に、クリスチャンリレーして、**辞任。請われて東京通信工業(ソニー)監査役に就任。自衛隊発足・・・1954＝69歳： 日銀参与から監事に。役員会にも喜んで通い、宮内庁時代の人脈も生かして、その発展を後見。**

国連加盟・・・1956＝71歳： 日赤監事を務め、東京市政調査会監事、学習院、日本育英会各評議員、中央教育審議会委員を兼任。

なべ底不況・・・1957＝72歳： ようやく、麻布笥町に{明協学寮}を再建するも、

美智子妃・・・1959＝74歳： すぐに閉鎖。駕籠町に戦後初めて自宅持ち、民間皇太子妃実現に万歳。***ソニー会長となり、ソニー社内からは"会長さん"と親しまれる。**

安保闘争・・・1960＝75歳：

タイタイ病始・・・1961＝76歳： 高等学校講座開講に校長を買って出る一方、高輪に三度目の{明協学寮}を開き、

全国総合計画1962＝77歳： 世界一周の旅や、

TV宇宙中継始1963＝78歳： 後藤新平・前田多門らの後を継ぐ形で、東京市政調査会会長に就任、

大学紛争始・・・1965＝80歳： ソニー会長を退き相談役。この年まで、**多彩なゲストを招きながら、若き人材の育成に情熱を注いだが、**

いざなぎ景気1966＝81歳： 小泉信三が死去し、**皇室の将来を憂い、業績が飛躍的に延びたソニーの慢心を懸念するうち、**

美濃部都知事1967＝82歳： 市政調査会会長も退き、

震ヶ関ビル・・・1968＝83歳： 体調を崩して、宮内庁病院に入院、肝臓癌たることを家族に知らせず、**没した。**

加藤恭子「田島道治」、